

# 競 技 注 意 事 項

## 1. 規 則

競技は2025年度（公財）日本陸上競技連盟規則及び本大会要項、申し合わせ事項によって行う。

## 2. 練 習

- ①練習は危険防止に十分注意して行う。競技場内もしくは競技場外園路とする。（公園側園路は禁止。）
- ②会場への投てき物の持ち込みは禁止とし、練習は現地集合完了後、役員の指示により競技場で行う。
- ③トラック競技開始15分前までは競技場を開放する。
- ④フィールド競技の練習は、役員の指示により競技場で行う。
- ⑤雨天走路は解放しない。
- ⑥別紙ウォーミングアップ会場図を参照して、練習を行うこと。

## 3. 招 集

- ①招集は1度行う。（現地招集）

下記の招集時刻までに現地にて招集を受ける。その際、アスリートビブス、競技用靴、衣類、持ち物等の点検を受け、トラック競技は腰ナンバーカードを受け取る。（リレー競技はアンカーのみ）  
なお、招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権とみなして処理する。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始15分前
フィールド競技	競技開始45分前	競技開始30分前

- ②出場する種目を棄権する場合、招集開始時刻までに、TIC（本部）に申し出ること。
- ③ウォーミングアップ中のケガ等により棄権をする場合には TIC（本部）に報告すること。

## 4. 入 退 場

- ①競技者はレース終了後、競技役員の指示に従って競技場から退場する。  
（本部前は競技役員の指示がない限り、通行することはできない。）
- ②競技終了後、腰ナンバーカードをゴール地点及び競技実施場所に置いてある「使用済み BOX」に各自で返却を行う。

## 5. アスリートビブス

- ①アスリートビブスは、陸上競技協会に登録されたものを使用する。所有していない中学生は、仮アスリートビブス（千葉県陸上競技協会指定の番号を記載したアスリートビブス）を使用する。
- ②アスリートビブスは胸（腹ではない）と背に、しわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでもよい。

## 6. フィールド競技について

- ①走高跳・棒高跳を除くフィールド競技は 3回の試技を行う。
- ②棒高跳支柱移動申告について、競技者は当該審判員に希望する支柱の位置申告をすること。
- ③走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。ただし、審判長の指示によって変更する場合もある。
- ④審判長の判断により、競技開始の高さを表記から変更する可能性がある。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
男子走高跳	1m20/1m50	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m45	1m50	1m55	※男子は 170cm以降、 女子は145cm 以降 3cmずつ
女子走高跳	1m00/1m30	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
男子棒高跳	2m00/2m50	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	以降 10cmずつ
女子棒高跳	1m60/2m00	1m60	1m80	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	

## 7. 競技からの除外

競技運営上必要と認めた場合、審判長がレース中の競技者を中止させることがある。

## 8. 用 器 具

- ①棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- ②スパイクのピン長さは、走高跳は12mm、その他は9mm以下とする。
- ③日本陸上競技連盟規則 TR5.2～TR5.6により、シューズ（スパイク・ランニングシューズを含む）の厚さについて、走高跳は靴底（ソール）全体20mm（かかと含む）、走幅跳は20mm（ただし前部が踵部より厚くなってはならない）、トラック種目で800m未満の種目は20mm、800m以上の種目は25mmとする。

## 9. 結果発表

各種目の結果発表は、アナウンスで行わず、記録一覧を各学校に配付する。

## 10. 抗議

競技規則 TR8 に定められている時間内により、選手本人もしくは代理人が TIC に申し立てを行う。

## 11. その他

- ① プログラム記載事項に訂正がある場合は、顧問が取りまとめ、8：30までに訂正内容を持って **TIC本部**まで申し出ること。
- ② セバレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は該当レーンに沿って走り抜けること。
- ③ ホームストレート側(本部前からフィニッシュライン付近まで)を通行しないこと。
- ④ 競技場内外のアスファルト部分へはスパイクで入らないこと。また、競技場内の芝生内、スタート位置後方、フィニッシュ位置前方に立ち入らないこと。
- ⑤ 競技中に発生した事故などについては応急処置を主催者側で行うが、以後の責任は負わない。また、体調が悪くなった者は医務員の指示に従うこと。
- ⑥ 更衣室では更衣のみを行い、私物等を置かないこと。
- ⑦ 各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ⑧ ゴミについては、各自必ず持ち帰り、競技場・駅・バス停など公共の場に捨てないこと。
- ⑨ 大会主催者から指定された場所以外でのテント張りは禁止する。
- ⑩ テントやタープは、ロープなどを使って手すりなどに固定し、強風で飛ばないようにすること。
- ⑪ 横断幕を設置する場合は、メインスタンド最上段の手すりのみとする。  
のぼりを設置する場合は、メインスタンドサイド階段フェンス部分のみとする。
- ⑫ スターターより「ON YOUR MARKS」がかかったら、選手が集中できるように競技場全体で音を出さないように配慮すること。スタートの付近では特に気をつけること。
- ⑬ スタート動作において遅延行為があった場合、1回目は「注意（グリーンカード）」、2回目は「警告（イエローカード）」、3回目は「失格（レッドカード）」とする。ただし、遅延行為の回数については、個人についてカウントするものとする。また、「警告」や「失格」については、同一種目に持ち越すものとする。
- ⑭ 競技者が号砲前にグラウンド（地面）及びフットプレートから手や足を離した場合、不正スタート（フライング）となり、当該競技者は失格となる。
- ⑮ 熱中症予防策として、日本スポーツ協会が定める熱中症予防運動指針に従い、WBGT31℃を超えた場合には競技を中断し、本部で協議する。原則として WBGT31℃以下になるまで競技は中断とし、中断時間が2時間を超える場合には本大会の以後の競技については中止とする。
- ⑯ **生徒による携帯電話・スマートフォン・ビデオカメラ・音楽再生機器等の電子機器の使用は禁止とする。保護者の撮影はメインスタンドのみ可とする。顧問による撮影は指導に生かすための撮影のみ可とする。なお、棒高跳に関してはバックストレート側テニスコート脇園路からの撮影を可とする。**